

やり続ける力を大切に

志藤 光介

株式会社Athnomedical CEO/青葉通り一番町形成外科皮膚科クリニック(皮膚科)/
東北大学学術研究員/大阪大学招聘教員/愛媛大学客員研究員

救急、クリニック、研究、会社、家庭のそれぞれを全力で楽しんでいます。地域差もあると思いますが、よくどう働いているのかと聞かれますので「Why？」を中心にまとめました。

- 救急：倒れた人がいたときにためらいなく医師と名乗り出られるように、救急を月1～2回以上、計10年以上行っております。寝られない夜勤が多いため次の日はきついですが、検査の合間に論文や書類を読み書きでき、子どもに邪魔をされない貴重な時間です。また、オリンピックのフィールドドクターなどの貴重な経験もでき楽しんでいます。
- クリニック（土曜）：経営者としての視点を学んでいます。収入の保険診療点数に加えて支出として固定費（人件費や家賃）、経費など税の勉強も必要になります。これまで読まなかった税制大綱改訂の文章や国税不服裁判所の判例をみながら、医業以外の経済的な側面について身をもって体験でき、とても刺激的です。税務調査などは本や資料で目を通すより、実際に経験することで多くのことを気づかせてくれます。クリニックは、大学や市中病院よりも患者さんと生活の距離が近く地域に貢献できる喜びもあります。さらに患者さんも気に入らなければほかの皮膚科に行くため、開業5年の節目で約2万人（仙台の人口の約2%）が来院してくれた喜びは大きいです。一方で、自分自身で診療行為に対するすべての責任を負うため、万が一の訴訟に備えるために弁護士を雇用し、自身も法律の知識やトラブルを未然に防ぐためのノウハウを学んでいます（幸い、いままです訴訟となったことはありません）。
- 研究（月～水曜）：2014年からゲノム～AI研究を行っております。外部資金（AMED, Grant, 科研費など）で研究室を借りて運営しています。外部資金がないと研究が継続できないため、あらゆる公募に応募しています。私の役割は、全体の流れを読み、そこから研究テーマを決めて論文を出していくスタイルですが、研究は共同研究者と学生に

依存しています。学部1年生を論文が書けるまで育てていくのは、時間と手間がかかります。しかし、学生自身の能力が飛躍的に伸びていく過程と一緒に経験できること、彼らのひたむきに取り組む情熱に触れること、研究を楽しむ若い力から元気をもらっています。就職報告はわがことのように嬉しいですし、研究期間が残っている方は、研究継続において重要なパートナーに成長します。

- 会社（木・金曜）：AIを利用した医療機器をつくるためには製造業販売許可が必要です。そのためには県から認可されるための法人格をもつ必要があります。2022年に株式会社 Athnomedical を創業しました。子どもは学業（塾や部活）のため、親は共働きのため、病院に来たくても来られない患者さん（とくにアトピー性皮膚炎・痤瘡など）の治療を、現場の診察レベルを維持しながらより簡単にできるようにしたいという思いがきっかけでした。写真診察と対面診察でアトピー性皮膚炎の疾患管理が同等レベルでできるという論文も散見され、ここにAIが加わることで写真診察のみで疾患が管理できるなら通院などの遺失損益も減り、喜ぶ患者さんが多くいるだろうと考え開発を続けております。ユーザーが求めるサービスがすぐに主流となる近年において技術の進歩により、われわれの診療体系も変わると思います。治療を希望する人が時間を気にせず診療にアクセスできるような環境を少しでも早く提供できるように取り組んでいます。

- 家族：日曜日は家族と過ごします。東京オリンピックに触発され、未来のオリンピックを目指して馬場馬術に取り組んでいます。2024年にはイタリアから来た家族（馬）が増えました。馬に触れ合うようになってからストレスが溜まりにくくなりセラピックホースの由縁を感じています。一方で、馬が病気になると人間とは違い検査や病気に対する研究不足もあり、非常に曖昧に診断が下され、さらに治療薬も乏しく（主に人間の治療薬を代替）不安になります。そんなときには、改めて先人が行った研究や臨床知識による皮膚科学の素晴らしさを感じながら「不安で来ている患者さんにもより丁寧に説明をしよう」と思い返します。子どもの長期休みに合わせていろいろな国の summer camp や firm stay に参加していますが、何かよい情報がありましたらぜひ教えていただきたいです。

私にとっての理想のワークバランスは、“やりたいことの出力を調整し、やれる範囲で楽しみながらやり続けること”だと思います。